

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年1月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177500170		
法人名	株式会社ハヤシ環境		
事業所名	グループホーム カルミア		
所在地	〒073-0024 滝川市東町7丁目219番地6 (電話) 0125-23-1700		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(平成21年 11月 3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 19人, 非常勤 1人, 常勤換算	17.75人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り	平屋建て
	2階建ての		1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	16,800~26,250 円
敷金	有( ) <u>無</u>		
保証金の有無(入居一時金含む)	<u>有</u> ( 100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / <u>無</u>
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

### (4) 利用者の概要(12月9日現在)

利用者人数	16名	男性 6名	女性 10名
要介護1	3名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	5名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 74歳	最高 92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝川市立病院・滝川脳神経外科病院・柳歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、「地域貢献」という目的で平成15年に開設した。建物は、木の温もりを大切にし、ユニット間ホールの吹き抜けからは自然な陽光が差し込み、庭には東屋やバードテーブルを設置するなど、利用者を主体とする五感刺激を配慮した造りとなっている。職員は理念や「カルミア日常の五心」及び施設長の格言などを原点にしたケアサービスの実践に努めている。また、認知症ケア専門士や保健師が常勤しており、認知症の進行に伴い適切な対応や利用者にとって必要な治療及び市内の医療状況などの情報提供、助言をしている。事業所内にAEDが設置されており、AED講習と救命救急講習を全職員が受けている。さらに、職員同士のコミュニケーションも良く、ケア理念に沿って日々ケアの向上に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である、重度化した場合や終末期のあり方の指針や同意書の作成については、重症化マニュアルを作成し、職員間で検討し、支援につなげようとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長は評価の意義を理解しており、自ら作成したチームワークにおける22の法則やケア理念と自己評価をリンクする方式で、幹部会で事業所の方策などを示し、職員と話し合いながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は医師や町内会長などで構成しており、事業所の運営状況や利用者の暮らしぶりを報告している。会議では、委員からのケアサービスに対する意見などを受け止め、職員で話し合いをしている。しかし、会議は2ヶ月に1回の開催には至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者や家族の立場からの意見や要望が気軽に伝えられる雰囲気づくりに努めている。「カルミアたより」や「カルミア写真館」で利用者の暮らしぶりを報告しており、家族から好評を得ている。また、敬老会や誕生会、クリスマス会、もちつき等に家族を招待し、食事を一緒にしながらも意見、要望なども聞き、事業所の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、事業所で設置しているAEDは地域住民も利用できることを呼びかけている。また、利用者が近くの理容院や書店に通っており、地域との交流は深まっている。また、大学の依頼により実習生の受入れやフラダンス、大正琴などのボランティアを定期的に受け入れている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み馴れた地域の中で「穏やかないつもの暮らしと自主性を尊重した生活」という思いを込めた、利用者本位の事業所を目指した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアにおいて、事業所の原点を再確認するために、朝の申し送りの際に理念を復唱したり、ミーティングや勉強会で話し合っている。さらに、「カルミア日常の五心」も掲示し、サービスの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、近くの理容院や書店などに通っている。また、もちつき等の行事に家族を招待したり、フラダンス、大正琴などのボランティアを受け入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は評価の意義や重要性を理解し、新人職員も含め、いま社会が何を求めているかなどについて話し合い、自己評価及び外部評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営や利用者の状況などを報告している。また、会議で出された意見などは、事業所の今後のサービスの方向性や質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へは現状報告をしたり、情報の交換などで、助言や指導を仰いでいる。また、保健センターへ口腔ケアの講師を依頼するなど、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の行事参加時での情報や高齢者介護についての記事を盛り込むなど工夫した「カルミアだより」や「カルミア写真館」を送付し、家族から好評を得ている。また家族の来訪時には、利用者の日々の生活ぶりなどを報告するとともに、利用者の健康状態に変化がある時は随時電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部及び外部機関の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記している。また、職員は家族の来訪時やケアプラン説明の際などに意見や要望を聞くよう努めている。さらに、より一層家族の思いを把握できるよう、アンケートボックスの設置を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が働きやすい職場を整え離職を防ぐため、年2回の職員との対話の機会を設けるなど、日常の思いを聞き入れるよう努めている。また、職員のユニット間の異動は極力回避しており、職員の交替がやむを得ない時には事前の説明や引継ぎ期間に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成のため、職員それぞれに応じて、グループホーム協議会をはじめ各種の研修や講演会の参加を推進している。内部研修では管理者が講師となり、事例検討を実施している。	○	今後、管理者は個人別に育成目標を示すなどとして、職員が日々の体験を学びにつなげていくための機会を推進することが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との連携や交流の必要性を認識しており、グループホーム協議会に加盟しネットワークづくりも行っている。また事業所たよりを交換するなど、情報収集や意見交換などで、運営やケアサービスを向上させていく取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前にケアマネジャーが利用者の自宅等に訪問したり、事業所の見学を行い、馴染みの関係づくりに努め、無理なく利用できるようにしている。また、場合によっては家族が利用者とともに宿泊をするなどの協力を依頼し、より安心感を得てもらうなど利用者の視点に立ち、柔軟に支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	車椅子使用や認知症の進行によって利用者のできることは限られているが、職員は日々の暮らしの中で、利用者の興味あることや得意なことを把握し、調理や野菜、花づくりなど活躍できる場面をつくり、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように暮らし、何をしたいかを聞き取り、利用者の発した言葉や表情から希望や意向の把握に努めている。意思疎通が難しい場合は家族などから情報を得て、本人の生活を支えるようスタッフミーティングで検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式を採り入れ、自分らしさが保てるよう利用者の要望や家族からの意見が反映されるようにしている。また、職員間で意見交換を行い、介護支援専門員を中心に課題を見つけながら、利用者がより良い生活が送れるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの際には業務日誌や生活状況表と照らし合わせて確認している。また必要に応じ、事業所独自の様式を使っている。利用者の状態に変化が生じた場合は本人や家族と相談し、現状に即した新たな計画を作成している。しかし、生活状況表などの記録が十分なものとはなっていない。	○	ケアプランは作成しているが、生活状況表の記録が十分でないため、事業所として課題となっている。一連のケアマネジメントが発揮できるような記録方法などの見直しを期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院、買い物、理髪店などの外出時の付き添いなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や利用者それぞれのかかりつけ医への通院対応も家族の要望に応じている。その際、同行した職員から必要に応じて受診結果の報告を行っている。また、ケアマネジャーが保健師の資格を有しているため、利用者にとって必要な治療や市内の医療状況などの情報提供や助言もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人にとってどうすれば良いか、事業所が対応できる支援方法を踏まえて本人や家族の意向を十分に聴き、医師との連携を図っている。また事業所は、現在のところ重度化や終末期の対応は考えていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	アセスメントシートなどの個人情報に関わる書類については事務室で適切に保管している。また、プライバシー保護のマニュアルを整備しており、利用者の日々の生活支援においては尊厳を重視し、プライバシーに配慮したケアに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴や体調、ペースに合わせ、その人らしい生活を送れるよう個々の生活リズムを大切にしている。また、散歩や買い物、レクリエーションなど、利用者の意向を尊重し、希望に沿えるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てたキュウリやカボチャなどの野菜を献立に取り入れ、その日のメニューを職員と利用者と一緒に考えている。その人の力に応じて調理や盛り付け、後片付けなども職員とともにしている。また一人ひとりの嗜好を把握し、誕生会のケーキづくりやおはぎなど献立に季節感を取り入れるなどの工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週に2～3回となっており、浴室は明るく清潔で、利用者の希望やタイミングに合わせて行っている。また足浴も取り入れており、利用者に喜ばれている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な分野や役割を見出せるよう、一人ひとりの生活歴や趣味など本人や家族から得た情報をもとに、本人の気持ちや力を活かし、楽しみとなる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身のリフレッシュにつながるよう、事業所周辺を散歩しながら花や野菜を見たり、買い物やドライブなどの支援をしている。また、施設長は自らも外出支援に加わり、利用者の個人的な希望にも対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、玄関にセンサーを設置するとともに利用者の外出傾向を把握し、職員の見守りを徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回消防署員の立会いのもと、総合避難訓練を実施している。災害時マニュアルも整備しており、利用者家族への緊急連絡網も作成している。また、事業所内にAEDを設置しており、AED講習と救急救命講習を全職員が受けている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の生活習慣と利用者の嗜好を取り入れ、個々の状態に応じた食事形態をユニットごとに提供している。食事や水分摂取状況は毎日のチェック表に記録し、職員間で共有化している。また、食事や水分を摂りやすいよう、盛り付けのアイデアを出し合うなど工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には畑や花壇、東屋・バードテーブルを配置し、利用者が憩う環境を整備している。ユニット間にあるホールの吹き抜けから自然な陽光が差し込み、四季の移り変わりが感じられる。また、リビングには畳のスペースも設けており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具や愛用の品物を持ち込み、家族の写真を飾るなど、利用開始前の生活とあまり変わらないように配慮している。また、洗面台や収納スペースを十分確保している。		

※  は、重点項目。